令和３年度広島県特別支援学校教育研究会　事業報告

１　会員数　1,141名

２　趣旨

　　障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち，一人一人の教育的ニーズを把握し，そのもてる力を高め，学習上又は生活上の困難を改善・克服するため，適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り，今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

３　研究主題

　　資質・能力の育成を目指すための主体的・対話的で深い学びの実現

４　活動内容

（１）教育研究会資料の作成等

○　特別支援学校教育研究会ホームページによる研究成果の報告

　　○　令和３年度広島県特別支援学校教育研究大会大会要項等の発行

（２）令和３年度広島県特別支援学校教育研究大会の開催

　ア　日時　　令和３年12月24日（金）12：45～16：30

　イ　会場　　広島県民文化センター　大ホール

ウ　内容

（ア）研究発表

　　○　教育課程グループ別４校による研究発表

（イ）講演

　　○　演題　　コロナ禍におけるICT機器を活用した主体的な学び

　　○　講師　　帝京大学教育学部　教授　金森　克浩

　エ　開催方法

　　○　各学校１教場（分校・分級・分教室はそれぞれ１教場とする。）につき10名以内での会場参加

　　○　各学校におけるZoomミーティングによるオンライン参加

　　○　各学校における収録DVD（研究発表・講演）による後日参加

５　研究成果

本研究会は，広島県内の特別支援学校の教育の充実を目的として，平成12年に発足し，令和３年度で22年目を迎えた。発足当時，五つの障害種別で部会を設けていたが，平成17年度からは統合し，時代の変化に対応しつつ，会員のニーズに応じて，特別支援学校における今日的課題をテーマとした教育研究に取り組んできた。

学習指導要領では，育成を目指す資質・能力として「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」が示され，その方法として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層推進することが示された。また，Society5.0時代に向け，デジタル機器を活用した効果的な教育の実現が求められている。

各校では，この学習指導要領改訂の主旨等を踏まえ，「広島版『学びの変革』アクション・プラン」第３期として，「学びの変革」の更なる加速に向けて，デジタル機器活用の推進を図りながら取り組んでいるところである。

　　しかし，コロナ禍において各種研修が中止になったり，オンラインに替わったりした。ICT機器の活用が盛んになった反面，コミュニケーション不足といった課題も新たに加わっていると考える。

研究大会では，「資質・能力の育成を目指すための主体的・対話的で深い学びの実現」を研究主題とし，４校による研究発表を行った。また，帝京大学教育学部，金森克浩教授から「コロナ禍におけるICT機器を活用した主体的な学び」という演題で御講演いただいた。まさに，今，我々が取り組んでいかなければならない，喫緊の課題に対応した，我々の主体的な学びを深めるものであった。

アンケート等による会員等からの意見では，概ね高い評価を得ることができた。各会員の更なる専門性の深化とともに，今後の本研究会及び広島県の特別支援学校の教育のより一層の充実・発展につながったと考える。